

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年4月18日

株式会社松原電機

太陽光発電パネルの設置を主業務にする株式会社松原電機。エネルギー問題を通して、地域活性化のために様々な活動を展開している。世界がカーボンニュートラルに向かう中、太陽光発電事業はどうあるべきか。代表取締役社長の松原俊介氏に話を聞いた。

Company Data

社名：株式会社松原電機

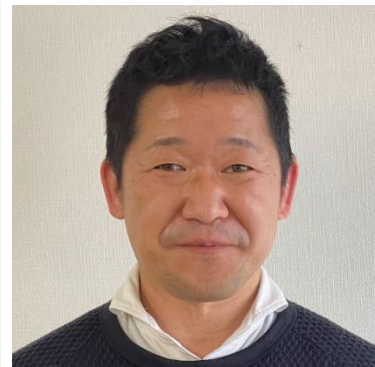
代表者：松原 俊介

住所：豊田市元宮町 6-32-2

電話：0565-33-0338

URL：<https://www.denkiya-matsubara.jp>

紹介金融機関：豊田信用金庫



なんでも請け負う「便利屋」からスタート

当社は2002年に、私が勤務していた電気工事店から独立する形でスタートしました。もともと、親戚からの紹介で従業員として勤務していました。しかし、請け負う電気工事はゼネコンや建設会社の下請けがほとんどでした。下請けの仕事をしている中で、お客さまと直接関わる仕事をしたい、と考えるようになりました。それが、独立のきっかけです。

独立時はお客さまからの受注が計画通りに進まず悩むことがあり、会社を存続させていくために、便利屋・なんでも屋として電気関連の仕事ならなんでも請けることにしました。1日に3つの仕事をこなすなど、大変な思いをすることもありましたが、当時の経験から、地域の皆さんには「松原電機は便利屋・なんでも屋」という認識を持ってもらい、今でも身近な存在として接していただいています。

太陽光発電普及のカギはサプライチェーン全体の取り組み

15年ほど前、便利屋として多忙のなか、コアとなる事業を検討していたところ、現在のメイン事業である太陽光発電事業と出会いました。

当時、太陽光発電は国の支援制度や固定買い取り価格制度（FIT）により、一般家庭や工場屋根、空き用地などを中心に普及が加速していました。その当時に比べると現在は支援制度などが少なくなりましたが、世界的な潮流は太陽光発電を含めた再生可能エネルギーへと向かっています。これまでは、売電を主目的とした太陽光発電の導入が多数を占めていましたが、今後はCO₂削減を目的とした導入が増えていくのではないかと考えています。

再生可能エネルギーの普及には、大企業がサプライチェーン全体で環境問題への対策を進めるイニシアチブを発揮することが必要です。今後は、環境問題への対策を積極的に行う企業が、再生可能エネルギーの中でも太陽光発電に高い関心を寄せていただくことを期待しています。



環境、産業、そして命を繋ぐ

太陽光発電はこれからが普及に向けた本番だと思っています。その中で当社が役割を果たせるよう、一層力を注いでいきたいと考えています。

最近、太陽光発電パネルの寿命が課題となってきていますが、技術の進歩でパネルをガラス、シリコン、絶縁シートに分離することが可能になり、リサイクルの流れが確立されつつあります。当社では、太陽光発電パネルのリサイクルについても、豊田市内を中心とした地域内でできるようにしていきたいと考えています。

パネルの設置も、これまでのように山林を切り拓くだけでなく、農業との共存を考えています。当社では、農作物に必要な日射量を計算して、必要な光量を確保できる太陽光発電パネルを設置し、農家にとっても新たな収入源になる可能性をお伝えすることで需要喚起できないかと考えています。

また、太陽光発電を広めたい、という思いの根幹となっているのは、私の亡き息子です。息子は生まれた時から寝たきりで、自宅で世話をしていた時、息子の命をつないでいる機器が停電で止まったらどうなるのかと不安でした。そのため、自宅に発電機や充電器を完備し、絶対に電気が止まらないようにしていました。この時、息子は電気によって生かされていると実感し、電気の重要さを改めて感じました。このことが、現在の事業に繋がっています。

念願だった、電気を売る会社

以前から、電気の販売も行いたいと考えており、2018年に地域の電力会社「おいでんエネルギー」を設立しました。同社は「エネルギーで笑顔あふれる地域の未来を創造する」を理念に、地域内の太陽光発電の電力を取り入れた電気の小売りを通して、エネルギーの地産地消を目指しています。松原電機とおいでんエネルギーの両社で、豊田市のカーボンニュートラルに貢献し、未来の子供たちの笑顔があふれる地域にしていきたいと考えています。新会社の反響もあり、昨年から「CO₂を出さない電力がありますよね」といった問合せを

いただくことが増えました。このように、環境問題に対して感度の高いお客さまが先駆者となり、市場が拡大していくと考えています。

地域貢献への想い、迷いを吹き飛ばした言葉

当社では、定期的に地域の子供向けに環境講座を開講しています。例えば、環境をかたちで理解してもらうために、牛乳パックとソーラーパネル、LEDライトを組み合わせた機器を作る講座などです。講座を始めたのは、地域とその未来を担う子供たちにエネルギー問題に関心を持って欲しいという願いからです。また、私は東日本大震災や熊本地震など災害時には現地のボランティア活動に参加するなど積極的に活動をしていました。しかし、私のそういった活動は、一方で「偽善者っぽい」と言われることがあり、辟易としていました。



そんな時に救われた言葉が、「やらない善より、やる偽善」という言葉です。この言葉と出会ったことで吹っ切れました。これからも、自分の身体を使って出来ること、自分の仕事のノウハウを生かせる地域貢献に挑戦していきたいと思います。

私はこれまで、電気を学び、電気を生業（なりわい）とし、電気に生かされてきました。今後も、太陽光発電と電気にこだわり続けるこの想いと共に歩み続けます。